

令和3年度 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校附属中学校 自己評価表

目指す学校像	10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
志願倍率こそ県内有数（高校全日1.28倍）だが、少子化・公立離れに抗う価値創造力は保持できていない。核となる学習指導においては、未だ一方向型の授業も多く、内発的動機づけや問いを引き出す技術が開発途上にある。組織運営上も学年・教科・分掌がサイロ化するなど、労働生産性に課題がある。生徒の主体性を軸に、時代に合った中高一貫教育像を再描画する必要がある。	【生徒】 21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る		
		ICTを活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する	
		多様な学びを促進する学習環境を提供する	
		生徒が主体性を発揮できる自由を創出する	
	【学校・教職員】 名実一致した合理的で生産的な教育機関となる		
		学校の向かう方向性を一にする	
		カリキュラム・マネジメントの機能を構築する	
		組織の生産性を高める（働き方改革）	
		ゆるぎなき教科教育の質を達成する	
		エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う	
	【地域社会】 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる		
	竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす		

【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る

教務*（教務部、進路部、SSH 部内で教務的な業務を担っている者）

評価項目	具体的目標	具体的対策	担当部署	評価		次年度への課題
生徒	ICT を活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する	デジタル・ファーストの効果的な学び方を確立する	教務*, 教科			
		ICT を活用した指導技術を身につける	全教職員			
		6年一貫した探究教育のカリキュラムと授業のひな形、ルーブリックを確立する	SSH			
		観点別評価を通じ思考力・判断力等を適切に評価する	教務, 教科			
		教員のコーチング/メンタリング力を強化する	校長, 教頭, 主任			
	多様な学びを促進する学習環境を提供する	（中学・高1）いつでもどこでも円滑にインターネットに接続できる ICT 環境を維持する	情報部			
		（その他）ICT を用いた学びの環境を充実させる	情報部			
		生徒が利用したくなる飛龍館にする（ICT 化など）	教務*, 情報部			
		蔵書・施設の電子化等、図書館機能の近代化を行う	図書館部			
	生徒が主体性を発揮できる自由を創出する	生徒会の自治機能を強化する	特活			
		校則・内規等の内容をスリム化する	生指			
		HR, 儀式, 行事における生徒の役割を拡大する	特活（, SSH, 学年）			
		部活動における生徒の主体性・選択幅を広げる	特活			
	グローバル教育を全校での取り組みに昇華させる	帰国子女（・外国人）選抜を促進する	校長			
		地域交流・姉妹校開拓等を通じ、継続的な異文化交流の場を構築する	国際交流委			
		コミュニケーション英語指導を強化する	英語科			
	キャリア教育の再生を通じ、生徒の学ぶ動機を強化する	質のいいキャリア教育資源を開拓・蓄積する	校長, 教務*			
	地域特性を活かし差別化された学びを提供する	単位制のベストプラクティスを収集する	教務*			
		ICT の素養と起業家精神を備えた卓越人材を育成する	校長, 情報科, SSH			
		EdTech ベンチャー等との連携やパイロットを推進する	校長			

	本物の課題発見・解決手法を用いた教材を開発する	校長, SSH, 中学			
--	-------------------------	-------------	--	--	--

【学校・教職員】名実一致した合理的で生産的な教育機関となる

評価項目	具体的目標	具体的対策	担当部署	評価	次年度への課題
学校・教職員	学校の向かう方向性を一にする	新たな教育目的・経営計画を策定する	校長		
		中高一貫の教育課程を開発する（3フェーズ型）	校長, 教務*		
		3つの方針を開発する	校長		
		不明な諸方針の明文化を行う	各分掌		
	カリキュラム・マネジメントの機能を構築する	経営機能を導入する（組織・意思決定フローの更新）	校長		
		中間管理（主幹級）の育成と組織化（旧：校務運営会議）を行う	校長		
		分散した教務機能を連結し、一貫した学習指導（新Rプログラム）を提供する	教務*		
		結果評価（成績・模試・アンケート等）の一本化・質向上を行う	DX 専門部隊（設立予定）		
		意思決定のためのBIシステムを構築する	DX 専門部隊（設立予定）		
	組織の生産性を高める（働き方改革）	分掌（部・委員会）の削減を行う	教務		
		業務（会議・手順・儀式等）の簡素化と断捨離を行う	全教職員		
		人・物・金の動きを俯瞰的に把握し可視化する	事務		
		表簿・帳票を電子化する	教務, 各分掌		
		情報共有を促進・迅速化する	教務, 事務		
		コミュニケーションのデジタル化を推進する	教務		
分掌の役割が見える化・最適化する		各分掌			
学校・教職員	ゆるぎなき教科教育の質を達成する	教育時事・事例等についての情報共有を活性化する	校長, 教務*, 全教職員		
		教員評価の質を向上させる（結果評価）	校長, 教科, 全教職員		
		教科の専門性とチーム力を向上する	教務*, 教科		

	シラバスにもとづく計画的な授業実践を行う	教務, 教科, 教員		
カリキュラム・ポリシーにもとづく6年間一貫した学びを提供する	6か年一貫した全体計画・目標を描画する	教務, 教科		
エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う	国内外の難関／優良大学への進学を支援する	進路, 高3		
	受験戦術にまつわる最新の知識をまとめる	進路		
	(部活実績も活用した) 総合型入試を積極的に推進する	進路		
	出口指導方針を明確化する	進路		
アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う	ポリシーに合わせた大胆な学検運用を行う	校長, 教務*		
	ターゲット層を戦略的に開拓する	校長, 教務*		
安心・安全の学校環境を維持する	清潔で利用しやすいトイレを充実させる	保健, 事務		
	個人情報保護方針を定義・運用する	情報部, 事務		
	一人1台環境に応じた情報セキュリティを維持する	情報部		
	いじめを防止する	いじめ防止委		
	校内での事故・災害を防止する	衛生委		
	教職員による不祥事を防止する	管理職		
	安全な部活運営を維持する	特活		
	正確な事務処理を行う	事務		
	会計コンプライアンスを遵守する	事務		
	学検におけるインシデント(含: 採点ミス)を最小化する	教委, 校長, 教務, 事務		

【地域社会】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる

評価項目	具体的目標	具体的対策	担当部署	評価		次年度への課題
地域社会	地域人材を活用した、開かれた教育を推進する	OB / PTA の学校運営への関与を強化する	渉外, 特活, 学年			
		地域課題の解決をカリキュラムに埋め込む	SSH, 中学			
		筑波大との高大接続を強化する	SSH			
		地域資源を開拓する	校長			
	竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす	視聴者目線で欲しい情報が効果的に取得できる学校 HP とする	教務, 情報			
		紙媒体の出版物の効果を評価し、取捨する	各組織			
		HP, SNS, ML などを通じ竜一の価値を発信しつながりを醸成する	校長, 教務*, 情報, 各組織			
		学校運営についての対外的な説明責任を強化する	校長			
	地域に支えられた持続可能な部活動に転換する	部活の適正数を維持する	特活			
		教員の部活動に関わる労働時間を正準化する	校長, 特活			
		部活動の教育効果と学習活動との相乗効果を可視化する	DX 専門部隊 (設立予定)			
		特別活動の多様性を上げる	特活			

<教科ごとの教育目標>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題
国語	現代文では漢字力と語彙力を、古典では文法・句法を中心に、基礎学力を確立させる。	計画的に単元ごとの小テストを実施し、語彙力をつけさせる。		
		現代文の授業において、論理的に文章を読解する姿勢を育てる。		
		基礎的・基本的な学習事項を段階的に学ばせ、国語に対する基礎学力を育成する。		
社会	授業の質向上に努め、学力の向上を図るとともに興味・関心を高める授業づくりに努める。	年間指導計画に基づき、担当者間の連携を図りながら、計画的かつ効果的な授業展開を通じて学力の向上を図る指導を行う。		
		授業内容を精選し、基礎・基本的事項の習得を徹底させるとともに、発展的な内容を扱う授業展開を行う。		
		他教科とのバランスを取りながら、適切な内容・分量の課題に取り組みせ、必要に応じて小テストを実施して、授業に対する理解度の確認と学習習慣の確立を図る。		
		定期考査・校内実力テストの成績分析を通じて、学習内容の習得状況を的確に把握・分析して指導の改善を図り、結果を生徒へフィードバックする。		
数学	様々な数学的な見方考え方を学び、数学に対する関心・意欲を高め、学習習慣および中学校数学の基礎を固める。	日々の授業において、内容を精選し基礎の確実な理解と定着を図る。		
		授業と連携した宿題を定期的に課し、家庭における学習習慣と基礎学力の確立を図る。		
		定期的に小テスト、章末テスト等を企画し、基礎学力を評価するとともに、そこで得た情報を基に弱点の強化を行う。		
理科	授業内容を深化させ、各生徒の基礎学力の定着を図る。	年間指導計画に沿った授業展開を心がけ、担当者間のコミュニケーションを図り計画的な指導を行う。		
		生徒にとって適切な内容・分量の課題を行わせることや、小テストを通して、学習習慣の確立を図る。		
		必要に応じ、各科目の担当者が個別の面談・指導を行い、学力の向上を図る。		
	自然や自然現象に対する興味・関心を高め、知識の活用能力を高める授業展開に努める。	観察・実験をバランスよく実施し、実物に触れることにより、興味・関心を喚起し、基礎的な概念理解の深化を図る。		
		高校のSSH事業を念頭に、日常現象と科学との関連を取り上げることにより、科学への興味・関心を高め、知識の活用を促す。		
		ICTを活用したシミュレーションや視聴覚教材などを用いて、授業への興味・関心を高め、より深い理解を促す。		
保健体育	各種の運動の合理的な実践及び相互理解・尊重の態度を育む。	自己の体力や生活に応じた体力を高めるための運動を合理的な方法で身につけさせる。		
		各種の運動の合理的な実践を通して自己の課題を見つけ、解決できる能力を身につけさせる。		
		各種の運動を通しての相互理解・尊重の態度を身につけさせ、コミュニケーション能力を育てる。		
		熱中症や怪我を防止するため、安全管理に留意して授業を行う。		
	健康に対する意識・実践力を育む。	健康に対する知識や実践力を養い、課題解決能力を身につけさせ、明るく豊かで活力ある生活を育む態度を育てる。		

		社会生活及び各個人の生活における健康・安全管理について、課題の解決に役立つ基本的な知識を理解する。				
音楽	音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に関する諸能力を伸ばし文化についての理解を深める。	協働することで主体的に音楽活動に取り組む。				
		多様な表現を経験し技能を身に付ける。				
		日本や諸外国の芸術作品を鑑賞する。				
美術	芸術を愛好する心情を育てるとともに、芸術に関する諸能力を伸ばし文化についての理解を深める。	協働することで主体的に活動に取り組む。				
		多様な表現を経験し技能を身に付ける。				
		日本や諸外国の芸術作品を鑑賞する。				
技術家庭	生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けさせる	実践的・体験的な制作活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技術を習得する。				
	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。	自分がかかわれる生活を見つめ、課題を発見し、その解決を目指して工夫するとともに、自分なりの方法を工夫したり創造したりする。				
	家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	実生活に即した具体例の提示や実践活動を通して、家庭のあり方や家族関係についての基礎基本を習得する。				
		生活の中心から課題を発見し、解決するための事例研究を行い、学びを深める。				
		様々な討論法により自己表現力の向上と、自己理解を通しての課題解決を図る。				
	家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する。	具体的な事例や演習の充実を図り、生徒が主体的に取り組む態度の育成を図る。				
実生活に即した実践的・体験的学習を通して、一人で生活する能力を習得する。						
外国語	英語に対する意欲及び興味・関心を高め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4領域について基礎学力の定着を図る。	毎週単語小テストを実施し、基本的な語彙を身につけさせる。				
		基本的文法事項を習得させ、英文を読む力と書く力を培う。				
		授業や家庭学習でリスニングの指導に力を入れ、英語を聞く力を養う。				
		A L Tとのチームティーチングを通して、話す力やコミュニケーション能力を育てる。				

<段階ごとの教育目標>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			次年度への課題
附属中	基本的な生活習慣の確立	服装や言葉遣い、時間やルールの遵守を中心に、自律した学校生活を送れるよう、授業や学校行事、休み時間等を通して、教員間や家庭と連携して指導する。				
	学習習慣の確立と学力の向上	面談やICTを活用し、予習・復習や家庭学習の状況を把握し、個の能力や環境に合わせて適切に指導する。 生徒の興味や関心、個性を教育活動で引き出し、コンテスト等何事にも積極的かつ貢献的に挑戦しようとする機会を設ける。 少人数学習の実施やICTの活用を通して、個に応じた学習指導を展開する。 中高一貫教育校の強みを活かして、学習の先取りや深い学び、異年齢学習、探究的な学習を実践し、生徒の能力の伸長を図る。				
	進路指導の充実	企業・研究所訪問や外部講師による講演会、模擬授業等を通して、知識や思考力の向上を図るとともに将来の職業について考えさせる。 語学研修やICTを用いた海外の中高校生等との交流により視野を広げ、世界に羽ばたく人材の育成を目指す。				
	心身の健康管理	複数担任制を展開し、多感な年齢の生徒のみならず不安を抱える保護者へのサポートの充実を図る。 年間3回以上の面談を実施する。また、教員間や保護者、スクールカウンセラーと連携し、心身ともに健康な学校生活を送れるよう支援する。				
	働き方改革	公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン（文部科学省）に則り、在校等時間（校外での勤務を含む）について1か月の超過勤務45時間以内、1年間の超過勤務360時間以内を目指す。そのために原則定時の出退勤と有休・代休の消化を心掛け、仕事の精選と分散、ICTの活用等で会議や仕事の効率化・生産性を向上させる。				